



岡山県議会議員 小林孝一郎

2012年3月6日  
一般質問

2012年3月12日発行  
岡山市南区福浜町15-10 1F  
TEL/FAX 086-238-0516  
E-mail [info@koichiro-k.net](mailto:info@koichiro-k.net)  
ホームページ [www.koichiro-k.net](http://www.koichiro-k.net)  
Twitter [kobayashi\\_info](https://twitter.com/kobayashi_info)  
Facebookで情報発信してます！

## 2月議会、一般質問しました！

1. 東日本大震災のがれき処理
2. 災害時応援協定
3. 財政構造改革プラン
4. 論語学習
5. 中山間地域での若者の雇用
6. アンテナショップの設置
7. ドクターヘリの搬送体制

→ 時間延長になります！

(山陽新聞3月7日に掲載されました)



12月に引き続き、3回目

# 東日本大震災のがれき処理

1. 県内受け入れの可能性 被災地のがれき処理は待ったなしの状態だ。県としても、市町村と専門家、県民で議論を尽くし、復興のため、がれき処理の受入れに協力すべきだ。被災地の痛みを分かち合うことこそが真の復興支援である。

2. 「みんなの力でがれき処理」プロジェクト 秋田県知事や神奈川県知事が中心となり、広域処理に取り組む自治体が連携・協力していくを目指し、発起人会を開催する方向で、プロジェクトが始まろうとしているが、これに参加表明をしてはどうか。

(知事) 処理施設の周辺住民からは、放射性物質による汚染への不安から反対の声があがっており、国民的な理解が得られていない。県内での受入れは、国が責任をもって国民的な理解が進むよう取り組みを行うべきで、県民の安全・安心を確保する観点から、現在、受入れの考えはない。

被災地の復興のため必要な支援を継続していくこと考えに変わりはないが、現段階では、がれき受入れを目指す、このプロジェクトへの参加は考えてない。

3月6日NHKニュースで報道、3月7日山陽新聞に掲載されました！

# 災害時応援協定

今回の震災を教訓として、民間事業者や関係機関等と新たな協定を結ぶ具体的な考えはあるか。

また、平成9年に県医師会や県薬剤師会と協定を締結しているが、今回の震災をふまえ、あらためて協定内容を見直す必要はないか。



(知事) 1月に包括協定を締結した大手流通・小売企業グループとの間で防災協定の締結に向け協議を進めている。他県の例なども参考に、必要と思われる応援協定については積極的に締結していく。

お話の通り、災害時の医療体制の確保は極めて重要であり、今回の震災を踏まえ、今年1月に県医師会と災害時の医療救護に関する意見交換をした。今後も、県医師会・県薬剤師会と協議を行い、必要に応じて協定の見直しを検討する。

# 財政構造改革プラン

「岡山県自らの努力により積極的に取り組む」とプランに掲げた、新たな超過課税の導入し、重点的に推進する分野の事務事業のための財源とするとしていたが、具体的な構想や提案がなされず、効果額約20億円の確保ができなかったことを、今、どう考えているか。

今後も、毎年20-30億円のレベルで社会保障関係費が増えていく。増税は大変難しい課題だが、取り組まなければ、議論も何も始まらない。歳出カットはこれまで十分なされており、改革プランが検証段階を迎えつつある今、今後のさらなる歳入確保に向けた考えを伺いたい。

(知事) 世界的な景気後退や、東日本大震災以降の、国における復興増税の決定や歴史的な円高の景気への影響など、社会経済情勢の動向を勘案した結果、県独自の超過課税を実施する環境にないと判断した。

県税の収入率の向上をはじめとしたあらゆる歳入確保対策に、継続的に取り組む必要がある。今議会に、国の復興増税に合わせた個人住民税均等割の標準税率引き上げのための条例案を提案している。

# 論語学習

県青少年教育センター閑谷学校で論語学習が行われており、興讓館高校でも1年生が論語を学んでいる。このような人間教育があって初めて学力やスポーツ技能の向上がある。岡山の教育再生の象徴として、県内全ての小中学校の道徳授業に論語学習を取り入れるべきだ。

(教育長) 変化が激しく、先行きが不透明な現在、悩みや不安を抱え、生きる拠りどころを求めている人が少なくない中、時代を超えて生きてきた論語から学ぶことは多い。

県内では、旧閑谷学校で論語学習を行っている小・中・高等学校もあり、また、備前市の学校では、教科等の学習に論語を取り入れて豊かな心の育成に取り組み、他校にも広がっている。

県教育委員会では、個人から寄贈された論語カルタやその解説書を、希望のあった小・中・高等学校へ配布している。

先行して実施している学校の状況を踏まえ、対象とする学年や目標、内容、教材等を十分研究し、市町村教育委員会等と協議し、全ての小・中学校での論語学習の実施を今後の検討課題とする。

## 中山間地域での若者の雇用

中山間地域のまちづくりに取り組む人材の育成が急務となっている中、地域で働く意欲ある若い人材に、地域における仕事に関する情報を提供するとともに、その若者が孤立しないための仲間づくりや自活に必要な支援を行うなど、若者の雇用と地域の活性化、まちおこしを組み合わせた取り組みをリードしてほしい。

(知事) 中山間地域の活性化のためには、若者の関心を高めることが重要で、「大学生・中山間地域サポーターズ・カフェ」や「おかやま元気！集落応援団」などで農業体験や地域活動を通じ、交流を促している。

西粟倉村の「森の学校」や、「英田上山棚田団」など、若者の雇用の場の確保につながる取組がいくつか出てきており、NPOや商工団体、農業団体等とも協働し、若者の雇用創出につながる地域の創意工夫あふれる取組を、県として、支援する。



2011/09/14 10

# アンテナショップの設置

首都圏でのアンテナショップ設置の前に、まずは、地元岡山でしっかりとしたブランド力をつけてから、全国展開を図るべきだ。

そのためには、JR岡山駅構内ないし駅付近に、観光案内を兼ねたアンテナショップを設置してはいかがか。



(知事) 岡山駅構内では、JR等が県特産品コーナーを設置し、商品を展示販売している。このように、駅構内では、民間による創意工夫ある取組がされており、支援団体等とともに、さらなる新商品の開発等を積極的に支援しながら、岡山市とも連携し、民間を主体としたアンテナショップ機能の充実強化を、県としても促進する。

# ドクターヘリの搬送体制

県民の命と健康を守るために、ドクターヘリと県の消防防災ヘリ「きび」の相互協力体制を確立し、搬送体制のさらなる充実を図るべきだがいかがか。

また、スタッフの増員等財政的な問題があるのは承知しているが、ぜひとも日中帯運行時間延長等の体制強化を図ってほしいかがか。



(知事) ご指摘のとおりで、現在、ドクターヘリ出動中の要請に対応するため、協定を締結している県内4病院の医師が消防防災ヘリ「きび」に同乗するドクターヘリ的運行を図っている。今後も、こうした活動の検証や訓練を共同して継続的に行い、救急搬送体制の一層の充実に努める。

現在、医療関係者や消防機関、市長会、町村会、運行会社などが参加するドクターヘリ運航調整委員会で検討しており、日中帯運行時間が延長できる方向で、関係者に働きかける。

3月7日、山陽新聞、備北民報(新見市)に掲載されました!